袋高通信

あいのだより

'20 12月号
令和2年12月25日発行
通巻第178号
静岡県立袋井高等学校

「withコロナのＰＴＡ活動」

ＰＴＡ会員の皆様には、本校教育活動にご理解とご協力いただきありがとうございます。

今年は、新型コロナ感染症拡大の影響で多くの学校行事が中止、変更になりました。ＰＴＡ活動も限定され、保護者の皆様には、大きな負担をおかけすることとなりました。今後の感染症拡大も心配され、学校行事も先行き不透明ですが、ＰＴＡ活動だけでなく、生徒の様子も学校ＨＰ等を通じてお伝えしたいと思っています。

本校ＰＴＡ活動の中心は、ＰＴＡ評議員による委員会活動です。生徒・保健委員会、広報・研修委員会、および進路委員会の三つの委員会によっていろいろな活動を展開していただいています。それぞれの委員会は一六名のＰＴＡ評議員で構成されています。これからも本校教育活動、ＰＴＡ活動の推進のためにお力をお貸しいただきますよう、お願い申し上げます。

最後に、本校では、緊急連絡用に「きずなネット」によるメール配信を行っています。登録方法は、学校ＨＰに掲載されていますので是非ご覧ください。

（総務課長　久野正勝）

本年度の活動実績

四月　入学式
（新入生、保護者のみ）
理事会・評議員会

五月　ＰＴＡ総会
（中止・委任状対応）

六月　緑風祭、バザー（中止）
臨時理事会・評議員会
参観会、地区会（中止）

七月　球技大会（生徒のみ）

九月　一学年ＰＴＡ（出席率83％）
二年評議員駐車場係
二学年ＰＴＡ（出席率79％）
一年評議員駐車場係
体育大会（生徒のみ）

十月　祭典補導（中止）
模擬試験監督

十一月　公開授業（中学生のみ）
学校保健委員会

一月　マラソン大会

その他　生徒登校時街頭指導

「マスクでジャンプ！！」　（2020年9月25日　体育大会より）

教務課

令和二年も残り少なくなってきました。今年は袋井高校にとっても、今までに経験したことのない一年になりました。新型コロナウイルスの影響により、二学期は体育大会を縮小して実施し、修学旅行や芸術鑑賞教室が中止となり、全校生徒が集まる行事は縮小したり放送で行ったりしました。なんとか休校せずに終えることができそうですが、終盤になって再度感染拡大の傾向が見られ、今後も予断を許さない状況が続きそうです。

十月の類型・科目選択により、来年度のクラス編成の概要が決まりました。新二年は文型二〇三人、理型八一人となり、文型五クラス、理型二クラスの編成となります。

新三年の文型は、文Ⅰコース（私立大文系希望）九十四人、文Ⅱコース（国公立大文系希望）一〇三人となります。文型五クラスの編成は、現三年と同じく文Ⅰコース選択者で二クラス、文Ⅱコース選択者で一クラス、文Ⅰ・文Ⅱ混合の一クラス、特進クラス一クラスとなる予定です。理型では、数学Ⅲ選択者が六四人、数学ⅠＡⅡＢ演習が四二人でした。理型三クラスについては、数学選択は混合で編成します。

特進クラスについては、新三年は今年度と同様に文型、理型に一クラスずつ設置します。新二年は文型には一クラス設置しますが、理型は二クラスとなるため設置しません。しかしこの理型選択者には、特進クラスの希望者が多かったので、特進クラスという形はとりませんが、志望大学に合格できる学力を身につける機会を提供する必要があります。そのための手当てについて検討を進めているところです。

三学期には三年生はいよいよ受験の本番を迎えます。一、二年生も次の学年に向かって勉強、部活に力を入れる時期です。それぞれが感染対策を徹底しながら、充実した学校生活を送ってほしいと思います。

（教務課長　河合良訓）

進路課

「じゃんけんの選択肢「グー」「チョキ」「パー」に、「キュー」という選択肢も加えた新しいゲームを考案しなさい。解答は新ゲームの目的およびルールを説明するとともに、その新ゲームの魅力あるいは難点も含めて、六〇一字以上一〇〇〇字以内で論じなさい。」

（二〇一八年度早稲田大学スポーツ科学部）

この問題は、新しいゲームとそれを成立させるための整合性のあるルールを自分で考えて創り出せるかが問われています。どのように解答するか、今ある知識を組み合わせて自分で考えて解答しなければいけません。創造的思考力を測る問題です。このような本質的な思考力を問う小論文問題は、日頃から自分でものごとを探究していないと答えられません。ペーパーテストで思考力や表現力、主体性などを測る場合、注目されるのは小論文試験ですが、今後はこのような本質的な思考力を問う問題が増えていくようです。また、共通テストの記述式もそうです。国語と数学の試験の一部に導入されることになっていた記述式問題。採点ミスを完全になくすことは難しいといった理由から導入見送りにはなりましたが、複数の情報から事象を分析する問題や、科目横断的な問題は予定通り出題される方向であり、知識だけでは対応できない試験になることに変わりはないです。そこで思考力が問われることになります。

さらには、入口である入試が変わるということは、大学の教育も変わってくるということです。最近は、独自性が高い新しいタイプの学部・学科が増加しています。例えば、滋賀大学データサイエンス学部、武蔵野大学データサイエンス学部、高崎経済大学地域政策学部、北九州市立大学地域創生学群、国際教養大学などです。大学での学びや求められる学力を知る意味で、調べてみるのも価値があります。

（進路課長　原田卓彦）

生徒課

二学期を振り返って

二学期が終わり、冬季休業に入ります。二学期には「体育大会」、「ロゴスの集い」、「疾風祭」など袋井高校の伝統的行事がありました。新型コロナウィルス感染防止のため、従来通りの形では行えませんでしたが、生徒の自主的な運営のもと、それぞれの立場で積極的に参加し、一生懸命取り組んでいました。部活動においても活動の中心が二年生に替わる中で各種大会や発表会で好成績を収めています。

さて、冬季休業を迎えるにあたり下記の点について御注意いただきたいと思います。一つは自転車による交通事故です。登下校において右側通行や、一時停止をしなかったり並進などをしていて、地域から苦情を頂いたり違反切符をもらったりするケースも多くありました。命を守る観点からも交通ルールやマナーを守り、時間に余裕を持った安全な登下校となるよう御家庭でも御指導をお願いします。そして年末の交通安全県民運動実施期間が十二月十五日（火）から十二月三十一日（木）までの十七日間となっています。運動の重点は、一）子供と高齢者の交通事故防止、二）歩行者の交通事故防止、三）自転車の交通事故防止です。生徒を含めて保護者の方にも、ぜひ御注意をお願いします。また、登下校時の送迎のルールについても今一度、御確認をお願いします。本校では登校時については愛野公園駐車場や調整池を利用しての乗降を、下校時については一八時を境に学校敷地内への車両乗り入れを許可しているところです。どちらも登下校時の学校周辺での事故を未然に防ぐためのものですので引き続き、御理解と御協力をお願いします。

次に不審者の問題です。警察などからの情報は、本校のホームページに掲載しています。特に必要な場合は、生徒たちに連絡し、注意を促しています。声掛けや露出等の事案は小中学生に多いものの、高校生の被害も心配されますので、冬季休業中においても校外生活には、御注意をお願いします。特に夕暮れや夜間の外出には注意を払ってください。もし、不審者を見かけたり、被害にあったりした場合は、警察と学校への連絡をお願いいたします。

冬季休業は短いですが健康に留意し、しっかりとした計画を立てて生活させてください。終業式には「冬季休業中の諸注意」を配布します。各部活動からも計画表が配布されますので、御覧ください。

（生徒課長　蔵原　純）

図書課

本を抱えて部屋のすみへ

図書館は「学びの場」「情報支援の場」「読書の場」であると言われて久しい。特に前二つの役割の重要性を最近では言う事が多い。本校でも学びや情報支援の場としての図書館のあり方を重視し取り組んでいる。しかし、今回はあえて「読書の場」＝「癒やしの場」としての図書館のあり方に触れていきたい。

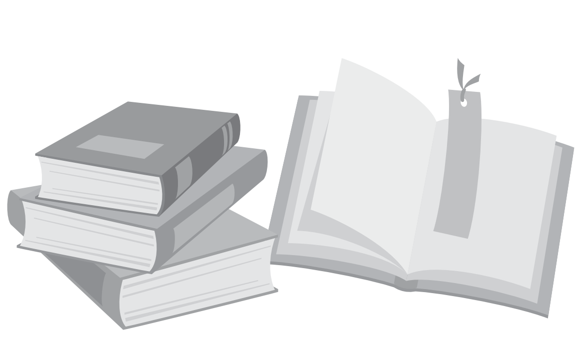
二〇一五年の夏、鎌倉市中央図書館が「死ぬ程つらいなら学校を休んで図書館へいらっしゃい」とＳＮＳで投稿したことは賛否を呼んだ。その大きな反響の中で、図書館に寄せられた意見の一つは「何もできないかもしれないけれど、見守る場所としてあることがいい」という図書館の役割の一つを言い得て妙である。

「図書館という静かな空間は、ただぼんやり静かに座っているだけでも傷ついている人にはこれほど癒される場所はない。具体的に子どもたちを助けたりすることができなくても、風雨や暑さ、寒さから守られて、一日中そこにいても誰からも責められずに、ここにいてもいいんだよと、見守ってもらえる場所だったとしたら、大人にとっても、子供にとっても大きな救いです。」

一人で静かに過ごしていても、何も言われずに放っておいてもらえる場が現代の高校生にはあまりにも少ない。図書館で居場所を見つけ、そこで広い世界や新しい価値観に出会えたら、行くべき場所にちゃんと進めるのではないだろうか。現実がしんどいからこそ現実離れした物語をあえて読み、泣いたり笑ったりすることで心のバランスをとる人は大人でも子供でもたくさんいる。

学校図書館というある種制約のある場所ではあるが、「本を抱えて部屋のすみで一人で座っているような子供達」をあたたかく見守って行けたらと思う。

（図書課長　戸塚　恵）



保健厚生課

感染予防と健康管理

(一) 保健室より「感染予防」

中国の武漢が感染源とされている新型コロナウイルスの世界への感染が始まって、ほぼ一年が経とうとしていますが、未だに終息の目途はたたない状況です。御家庭や学校、職場で今まで経験したことのないストレスに日々さらされている中、年末年始にかけて健康には十分注意をしていただきたいと思います。学校では以下の点に注意をして日々の感染予防対策をしています。

①毎日の検温、手洗い・うがい、手指のこまめな消毒
②マスクの着用、器具等の消毒
③教室の換気と三密の回避

御家庭においてもお子様の体調管理、発病に抗する免疫力を高めるための工夫を引き続きお願いします。そのためには十分な睡眠、適度な運動、食習慣がポイントとなります。御家庭での御協力をよろしくお願いします。

「保健室の来室状況」

昨年と比べ来室者全体が八〇名程度減少しています。発熱や悪寒など病気による来室が三割程度減少しましたが、健康相談が昨年度の一・五倍に増えています。新型コロナウイルスへの不安から、体に変調をきたしたり、体調不良となるケースもみられます。御家庭では、学校や家庭生活での不安を解消するためにも、お子様とコミュニケーションをとる機会を持っていただければと思います。

(二) 教育相談室より「心のケア」

本年度は、月に数回、金曜日にスクールカウンセラーによる学校でのカウンセリングの日を設けています。事前にカウンセリングを申し込めば、生徒だけでなく関係する保護者の方もご利用していただけますので、気軽にご利用いただければと思います。様々なストレスにさらされている時代、心の管理・ケアが大切になります。お問い合わせは、相談室担当または養護教諭までお願いします。

(保健厚生課長　横地　亨)

令和２年度　保健室来室状況（4月～10月）

月別件数	けが	病気	健康相談	合計
4月	1	3	2	6
5月	1	35	3	39
6月	16	60	30	106
7月	9	48	9	66
8月	4	30	3	37
9月	8	93	27	128
10月	4	65	14	83
合計	43	334	88	465

研修課

お子様方の成長、育成を念頭に、研修課では教員を対象に様々な研修を行っております。教員の資質向上はお子様方の確かな学力の定着に大きく関わるとの認識のもと、研修には真摯に取り組んで参りました。

今般のコロナウイルス感染防止に係る教育諸活動の縮減は、教員研修の範囲にも及び、十分な研修を行えない実情がございます。ですが本校校長の「ピンチをチャンスに」というスローガンのもと、これまでさほど意識して参りませんでしたオンライン授業について、そのスキル向上をはかる「機会」と捉え、インターネットを媒体とした教育手法の構築をある程度実現することができました。治療の確立しない疫病についてはその動向は推し量れず、常に最悪の状況を想定しながら可能な限り教育活動に支障をきたさない手法を一層深める必要がある、との認識をあらたにしたところです。

また入試制度の改革に伴い、小論文やプレゼンテーションといった形式の試験が、以前にも増して散見されるようになりました。教員にとりまして専門教科外の指導を余儀なくされるこれらの指導につきましても、今後見識を深め、各御家庭からの御期待、御要望に応えられる確かな資質を教員は備える必要があります。これは研修課にとりまして喫緊の課題として受けとめているところです。

最後にオーストラリア研修についてですが、現状ではまったく動向が見えない状況です。進捗についてきましては折に触れて御報告致します。

(研修課長　久野正幸)

広報課

本年度の広報活動について

広報課では、袋井高校の様子を発信するために、学校ホームページや学校案内、学校新聞を作成しています。特に中学三年生に対しては、「学校案内」やリーフレットを配布しています。

例年、八月初旬に「中学生の高等学校一日体験入学」が行われ、多くの中学三年生と保護者が参加します。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で「一日体験入学」は全県で一斉に中止になりました。そのため、毎年十一月に実施している「公開授業」を「一日体験入学」の代替行事として開催しました。

「公開授業」は、例年ですと本校の保護者の方にも参観していただいていますが、今年度は多数の中学生の参加が予想されたため、中学生とその保護者に限定いたしました。本校保護者の方には、参観の機会がなくなってしまい、御迷惑をおかけしました。

十一月七日の「公開授業」当日は、あいにくの天候でしたが、中学生とその保護者合わせて八〇三人の方が参加されました。受付では、検温や参加票の提出、手指消毒などの感染症対策を行いました。公開する時間を長くしたり、視聴覚室で学校説明や生徒会作成の動画上映を行ったり、実施方法を変更しました。ミニ文化祭の疾風祭と合わせ、「一日体験入学」の代替行事としてできるだけの対応をし、中学生には袋井高校の良さを伝えられたと思っています。

今後も生徒の活動を中心に、袋井高校の様子を発信していきたいと思います。よろしくお願いします。

（広報課長　石川泰三）

一年部より

無限と有限

コロナに翻弄され続けた令和二年も残りあと二ケ月。今年は二回一年生諸君＋保護者の皆様の前で話をする機会がありました。（入学式、学年ＰＴＡ）

そこで主にお話させていただいたことは、

一　自分の選択に責任を持つ

二　時間を有意義に使う　の二つのことでした。

これは、生活の中に生かされていますか？

さて、僕が小学生のとき、「一〇〇万円を貯めたい。」と思いました。（なぜ一〇〇万円なのかというと想像できる限り大金で、でも十分手が届きそうな額。）

それではその方法は、①「塵も積もれば山となる」方式で。最初は、一日十円貯めようと。ところが月の小遣いが三〇〇円だったので不可。それでは、②一日目は一円、二日目は二円、三日目は四円…、というように倍々でいったらどうか。これも、最初は良さそうだったが八日目になんと一二八円となることがわかり、それも不可。（この調子で三十日目にはいったいいくらになるのだろう？暇な人は是非計算を。二の二九乗です。）というわけで、無理なく毎日貯めてゆける金額はいくらくらいなんだろうと考えた訳です。一日一円、それとも五円？。そこで、③一日一円ずつ貯めて行くと、いったいいつ一〇〇万円貯まるのだろうか？

そう考えたとき僕は愕然としました。一日一円毎日貯めて一年で三六五円、十年で三六五〇円、一〇〇年で三六五〇〇円、一〇〇〇年かけても三六五〇〇〇円にしかならない。一〇〇万円いったいいつになったら貯まるのだろう…。

それに加えてもっとびっくりしたことが一つ、僕の周りに一〇〇歳を超えている年寄りはめったにいない。ということは、僕はきっと一〇〇年は生きないだろうということ、僕の人生はたったの三万六千日もない…。

お金を貯めようなんて考えはもう、どこかへ行ってしまいました。

前途洋々たる人生が待っている、と素直に考えていた当時の僕にとってはちょっとショッキングな考察でした。この三万六千という数が大きいか、小さいかは別にして、無限だと思っていたものが実は有限であった、そしてそのゴールは誰にもわからないということ。

その日を境に小学生の僕が劇的に変わった訳ではありません。ただ「洋々たる」未来に対して持っていた漠然とした不安が消えたことは確かです。何となく楽になった、そんな気持ちであったことは確かです。だから今、数学を僕はやっているのかもしれません。

さて、袋井高校生諸君。ということは君たちが〝高校生〟でいられるのは一〇〇〇日余りでしかないのです。あと何日残っているでしょうか……？

我々が使える時間は有限です。だからといって「ムダな時間を…」とは言いません。それに意味が出てくる、そんな時間を過ごせるよう、期待しています。

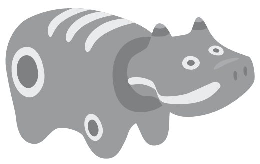
（一学年主任　落合克弥）

二年部より

　二学期が終わろうとしています。日常に近づきつつも、例年と異なる二学期でした。九月の体育大会は、種目を変更し、保護者の見学も遠慮願いました。雨模様でしたが生徒は一生懸命に取り組みました。十月には、ロゴスの集いが行われました。これは、本校の伝統の弁論大会です。クラス、学年の予選を勝ち抜いた生徒計九名が本選に進みます。今年は体育館での発表ではなく、放送での実施となりました。二年生代表は、25ＨＲの西尾さん、26ＨＲの桑原さん、28ＨＲの田代さんでした。十一月には、修学旅行の代替旅行が行われました。第三波目前の取りやめも考えなければならない状況で、クラスごとに計画した旅行が実施できました。事後の体調不良もなく、楽しく終わらせることができました。生徒会選挙では、28ＨＲの大西廉君が会長に選出され、生徒会の屋台骨を担うことになりました。こちらも放送での立会演説会の後、各教室での投票となりました。そういえば、体育館で学校全体が集合しての式典や集会は一度もなかったと思います。形を変えての実施が続きましたが、生徒たちは理解し、前向きに取り組んでくれました。

　年がかわると、受験の年です。大学受験も試行錯誤のようで、リモート受験を含めどのような状況になるのかはっきりしない部分が多いですが、大事なのは、どのような形でも対応できる実力をつけることです。そのための指導を今後も続けていきます。三年になって始めるのではなく、早くからその気になって取り組むことが必要です。二年三学期は「三年ゼロ学期」との意識で行動してもらいます。今後は、志望大学・学部や受験方法などについて明確化させながら、勉強の質と量を向上させる指導を重ねたいと思っています。家庭でも、お子様と話をする機会を増やしていただき、進路希望の決定や普段の学習の援助をしていただけたらと思います。今後ともよろしくお願いします。

（二学年主任　栗田秀樹）



三年部より

人事を尽くして天命を待つ

　表題の大切なところは、「天命を待つ」ではなく、「人事を尽くして」でありましょう。人として（われら袋井高校三年生においては特に受験生として）できるかぎりのことをする。問題は、本当に「人事を尽くして」きたと言えるかどうかです。

　二年前、講演会である先生のお話をうかがったとき、「できない理由は二秒で言える」というお言葉がありました。生徒のみなさんのみならず、我々大人にも耳の痛い言葉でした。

　「できない理由は二秒で言える」。事程左様に、実行は難く回避は易い。

　しかし、二学期は、三学年の生徒のみなさんが授業を大切にし、放課後も学習に励む姿が本当によく見られました。家庭学習の平均は平日は四時間を超え、休日は七時間から八時間に及ぶこともありました。特に、平日に五時間以上学習をしている人の多くが、めきめきと実力を上げています。

　さて、「人事を尽くす」べきことは学習だけではありません。生活習慣を整えることも必要です。①早寝早起きを心掛けること。②体操や手伝いなどをして、体を動かすこと。洗濯物を干したり取り込んだり、風呂掃除をしたり、食事の片づけをしたり、散歩をしたり。日常生活をリズムよく送ることが大切です。

　御家庭におかれましては、どうぞ腫れ物に触るような接し方ではなく、家事の担い手として頼りにしてください。そして、食事はご一緒に。少し元気がないようでしたら、話を聞いてあげてください。何と言っても、生徒の皆さんが最も頼りにしているのはご家族なのですから。

　この冬休みがどうか生徒のみなさんにとって充実した期間でありますようお祈りいたします。

（三学年主任　大石真理）